

## 会計学

### 出題の趣旨・解答例

#### 問題Ⅰ

##### 1. <出題の趣旨・解答例>

「企業会計は、その処理の原則及び手続きを每期継続して適用し、みだりにこれを変更してはならない」と記述した上で経営者の利益操作を防止し、財務諸表の比較可能性を確保する意義があると解答すること。企業会計原則の一般原則は全てを理解している必要があるため出題した。

##### 2. <出題の趣旨・解答例>

会社法会計の目的として株主および債権者の保護、株主と債権者の利益調整を挙げ、(1)については書面または電磁的記録による作成や会計帳簿の10年間保存、明細書の作成、一般に公正妥当と認められる企業会計の慣行に従う点に言及されたい。(2)については直接開示と間接開示を、(3)については株主利益と債権者利益のトレードオフについてそれぞれ言及されたい。会社法会計の目的のみならず、金商法会計や財務会計の社会的機能についても理解している必要があるため出題した。

#### 問題Ⅱ

1. 費用を変動費と固定費に分解する意義と、その分解の具体的な方法についての理解度を問う問題である。

(1) 費用を変動費と固定費に分解することの意義としては、短期利益計画への役立ち、原価管理への役立ち、期末在庫への固定製造間接費の配賦額が次期に繰り越されることによる恣意的な利益操作の排除などが挙げられる。解答に際しては、これらの意義について、全部原価計算の特徴などと対比しながら簡潔に言及していることが期待される。

(2) 費用を変動費と固定費に分解する具体的な方法としては、勘定科目法、

高低点法，最小二乗法，散布図表法（スキッター・チャート法），工学的方法などが挙げられる。それぞれの具体的な特徴と利点および欠点などに言及した解答が望まれる。

2. 近年の監査における基準の改訂について，その内容と意義を問う問題である。（1）は，国際監査基準（ISA）における，個々の基準の目的を明確にするとともに，基準が要求している事項とそうでないものを明確に区分して記載する改訂プロジェクトであり，監査の基準の明瞭化ないしは透明化ともいわれる。我が国の監査基準委員会報告書もこれにしたがって改訂され，必要に応じて監査基準も改訂されてきた。これらを総合して，我が国の監査の基準が形成されている。本問では，監査の基準が改訂されてきた理由が理解されていることを問うている。ここでいう，監査の基準は我が国のものを念頭に置いても，あるいは国際基準を念頭に置いて論述しても構わない。（2）も同様の趣旨を持つ問いであるが，監査報告書の透明化については，我が国では特にこの数年において行われたことであり，より時事的な関心があるかを問うものとなる。特に，監査報告書の構造の変更や，監査上の主要な検討事項（KAM）の導入についての理解が問われることになる。

## 経営学

### 出題の趣旨・解答例

#### 問題Ⅰ

まず、トランスナショナル組織が生成された経緯、現地適応と国際統合の両方を意図した統合ネットワーク型の組織であることの説明が求められる。親会社は各拠点間を調整し、協力を促進する役割を担うこと、専門的な経営資源と能力の構築は各拠点に分散していること、各拠点は経営資源の相互依存関係にあることなどの説明が求められる。現地適応と国際統合を目指した組織であるが、実際の運用が難しい組織でもあることの指摘も求められる。

(問題本文は記載不要。出題の趣旨は200～400字程度で記載してください。)

#### 問題Ⅱ

出題の趣旨は、モチベーション論の代表的なモデルを取り上げ、経営学（特に組織行動論）の基本的な知識の習得度を確認することである。解答には、以下の3点の論述を期待している。(1)5つの中核的職務特性（技能多様性、タスク完結性、タスク重要性、自律性、フィードバック）および3つの臨界心理状態（仕事に対する有意義感の経験、仕事の結果に対する責任感の経験、業務の結果に対する知識）の内容。(2)中核的職務特性、臨界心理状態、成長欲求、成果変数との関係。(3)潜在的動機づけ得点（Motivating Potential Score）の算定式と含意。